

2021 年度グローバル会計学会賞

伊藤 和憲著『価値共創のための統合報告—情報開示から情報利用へ』

(同文館出版, 2021 年 7 月 30 日刊行, 272 頁, 2,500 円+税)

【推薦理由】

本書は、国際統合報告評議会（IIRC）による統合報告に着目し、従来の財務会計の情報開示指向から管理会計の情報利用指向への研究視点の重点シフトのもとで、IIRC フレームワークのキーワード、統合思考、価値創造、及び情報の結合性に内在する問題点を克明かつ丁寧に分析し、管理会計研究で培われたバランス・スコアカード（BSC）の知識と手法を援用することによって、独自性ある統合報告のあり方を究明しようとするものである。具体的には、本書の特徴は、次の3点にある。

第1に、統合思考を企業戦略、事業戦略、業務計画、実行、戦略策定と業務計画と業務計画の修正からなる「統合型マネジメント・システム」として動的体系的に明示し、従来の「戦略—業務計画の実行」というシングル・ループの学習に対して、戦略策定と業務計画の修正を扱うダブル・ループの学習に転換したこと、第2に、価値創造を共有価値（CSV）ではなく、価値創造と価値毀損の抑制に区分して、企業価値を経済価値、顧客価値、社会価値、組織価値の総体として特徴づけたこと、第3に、情報の結合性を財務情報と非財務情報の結合、及び活動と資本の結合として把握し、前者の結合性に対してBSCの戦略マップを活用するとともに、後者の結合性にはレディネス（準備度）評価による評価・管理の可能性を明らかにしたことである。

本書では、これらの特徴を理論的に解明するのみならず、わが国の優れた統合報告の事例を装備することによって、一層説得力あるものとしており、財務会計と管理会計を融合させた研究の斬新性と大きな発展可能性を有する価値共創時代のグローバル会計研究をなす。よって本書は、グローバル会計学会への貢献は顕著であるとして、本審査委員会は学会賞を授与するものである。